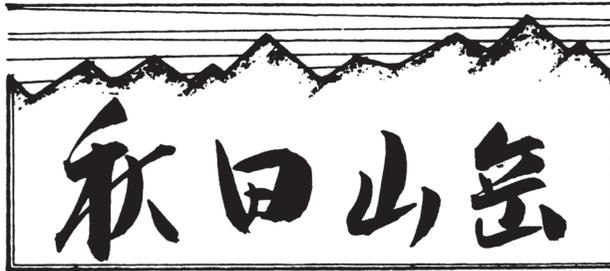


2016



平成 28 年 8 月 発行

No. 101

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市 泉 菅野  
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX 018 (823) 2708

発行者 今野 昌雄

編集者 鈴木 裕子

## 春の里山山行

### 新緑の勝軍山へ

藤田正義

恒例の春の里山山行は、五月二十一日(土)大仙市の勝軍山へ、十八名が参加した。好天にも恵まれ、和気あいあい登山を楽しんだ。

勝軍山(三三九・五m)とは、なんと勇ましい名の山であろうか。この山は保呂羽山信仰で知られる大森町と南外の境にある。山頂にある神社には摩利支天尊という武士の守り神が祀られ「坂上田村麻呂や八幡太郎義家以来、多くの戦の勝利祈願される山として知られる」という。(勇まじさを鼓舞する陰には多くの悲劇が隠されているのだが…)旧佐竹藩の祈願所でもあった。近年は、出征兵士の武運長久から学童スポーツ大会の勝利祈願まで、さまざまな人を迎えているという。

登山口の向かいには、国指定重要文化財になっている波宇志別神社の神楽殿がある。この日、神楽殿の駐車場に集合し、今野支部長からの挨拶の後、鎌田担当委員から行動の諸注意と新参加者の紹介があった。

午前十時、いよいよ登山開始。鳥居を潜り舗装道路から砂利の林道へ入る。林道は歩きやすく身も心も軽やか気分。道脇に生えているワラビを採る人も、ウドを見つける人もいて、盛り上がる。

途中の休憩時、今野支部長から恒例の通行手形・バナナが配られ、皆で臨

時の栄養補給(?)し出発したが、その後にはちよつとしたハブニングが。林道が新しく切り開かれて延伸し、それが道別れして判りづらい。通常、登山コースの要所には案内標識があり、木枝に赤いテープが結ばれ目印になっているのだが、それが見当たらない。

先導グループが「これはおかしい」と気づいたので。しかし、勝軍山登山の経験がある人たちが多く参加しているので誰もあわてない。

私も「尾根に上がり、尾根伝いに移動すれば正規の登山道に出られる」と自己流に判断した。一行は尾根部まで、想定外の道なき急



坂に挑み、ヤブ漕ぎを敢行した。「久しぶりにヤブ漕ぎをした」「順調に登るよりの方が面白い」と言う人もいた。

ほどなく道しるべである赤いリボンを見つけ出し、正規の登山道へ入ることができた。ヤブ漕ぎのお陰でめったに見ることのできないギンランに出会った。

やがて道は下り、沢に清水が流れていて不動明王が建つ垢離取場に着く。その水場から坂を登って行くと新しく開かれた林道に出る。林道脇から参道に向かう入り口には、秋田支部が設置した「勝軍山」の案内板があった。

佐々木顧問と畠山秀雄さんが、この林道を車で来て、設置したとのこと。

その二人と合流し、全員揃う。参道入口は、左の三吉神社と右の黒白稲荷社が対になっているので、山門のように見える。そこから石段を登って行くと神馬社があり、その上がケヤキ造りの勝軍山神社である。

神社裏から少し登り、十一時四十五分、二等三角点のある頂上に到達。ここで記念の集合写真を撮る。

この後、神社前に戻って、皆のおいしそうな顔が見えるように車座になっての昼食会。お惣菜の交換、個人山行の話と賑やかに交流を深めた。

ここからの見晴しは良い。出羽丘陵の山々と平鹿から仙北にかけての平野が望まれる。

十二時五十分、下山開始。帰路は所々に赤いリボンの補強を行いながら、正規の登山道を下る。

午後一時五十分、無事駐車場に到着。ここで解散となったが、希望者は、今日、支部友として参加した佐々木玲子さんが勤務している「南外村民族資料交流館」の見学をした。昔懐かしい写真や農機具、生活用品が展示しており、これは家にあった、これで遊んだ、爺さんが使っていたと子供の頃の話となり、賑やかで、大きなおまけのついた山行であった。

参加者 今野昌雄 佐々木民秀

福田光子 柳田勇悦 鈴木裕子

鎌田倫夫 佐藤博 高橋忠雄

柴田勸 佐々木長秀 佐々木悦子

安藤金栄 藤田正義

会員外 畠山秀雄 柴田路子

柳田レイ子 佐々木玲子

三浦正弘

## 太平山山開き清掃登山 「山の日」制定を祝う 三浦真六

六月十二日(日)、太平山旭又登山口に集まった二十人を超える山仲間たち。山岳会やグループは別でも顔見知りの面々。今年も秋田市が募集した清掃登山の支援が目的である。

今回の募集登山者はどういう方々だろうか、新しい出会いに期待しつつ、全員が頂上に立てるだろうか、不安を持ってバスから降りてくる参加者を待つ。

秋田市建設部公園課長から「秋田県から山の日制定記念パッチとこみ袋、軍手の提供をいただき、県自然保護課から五名の支援参加があり、皆さんと一緒に登ります」と紹介され、この清掃登山が「山の日」制定後、初めての実施であることを再認識し、山の日制定に感謝。

三十四人の参加者は、三班に編成され、ゆつくりとしたペースを保ちながらあやめ坂を登ってゆく。標高七〇〇mを超え、疲れが出始める頃、陽に照らされ黄緑に輝くブナの若葉に感激。美しく伸びる幹の太さにも感嘆。

程なく御手洗に到着。冷水で喉を潤し、次の急登に備えた。

登り始めて四時間、遅れがちだった最後の一人が頂上着。この方は「毎週二回ラリーボールに参加しているので、十分に登れると思った」とのこと。これが募集登山の難しさである。



ブナの木々が美しい御手洗の水場で休憩

頂上に鎮座する太平山三吉神社本殿で行われる「安全登山祈願祭」のお祓いに参加し、大杯でお神酒をいただく。記念撮影後、ゆつくり休む間もなく午後一時下山開始。

長年踏まれ、雨に洗われた登山道は、木々の根が浮き上がっている。事故は下山の方が多い。躓かないように、石車に乗らないよう丁寧に下る。

午後四時三十分、旭又登山口に全員無事に下山し、終了。

この登山に秋田支部からは、班長、サポーターとして十二名参加。案内と安全を確保する主要な役割を担った。公益法人としての活動の一つとして、事故なく終了できたことに感謝し、解散。

秋田支部参加者

佐々木民秀 三浦真六 鈴木裕子

堀井弘 鎌田倫夫 佐藤博 安藤金栄

今野昌雄 福田光子 川口廣志

大橋忠雄 長岡幸則 沢田石一夫

※太平山登山以外にも地域の清掃登山等に協力、または実行委員として活動されている会員の方は、事務局までお知らせください。会報に掲載して、周知したいと思います。また、支部の公益的事業として評価されます。

### 「山の日」制定に思う

佐々木 民秀

六月十二日に行われた「太平山山開き清掃登山」は、支部会員等の協力により、無事終了した。かつての中老年登山ブーム以降、参加者の年齢層も多少若返り、初めて太平山を登るという人も多かつたようである。

一般登山者の中には、遠く岡山や静岡から参加した人もおり、県外人の気は相変わらず高い。

日本三百名山や東北百名山、新日本百名山に選定され、一等三角点もあることにも繋がっているようだ。秋田県内には、登山として楽しめ



る山は里山も含め百五十山ほどある。各地域に鎮座する鎮守の森・里山は数多いが、今日では一部を除いて大方忘れ去られ、廃道化と無縁神仏化が進んでいる。

また、崩壊した林道も以前のように修復は進まず、人口減少と高齢化、過疎化、それに市町村合併なども関係があるようである。

本年から「山の日」が制定され、スタートする。願わくは、知名度の高い山々のみに脚光を浴びせず、古来から地域の人々と関わってきた里山などにも大いに登り、親しんで頂きたいものと思う。

(秋田県生活環境部自然保護課発行「山の日情報」(第二号)に掲載されたものに加筆)

### — 本会総会開催 —

平成二十八年年度通常総会が、六月二十五日午後二時から、東京新宿区市ヶ谷のAKP市ヶ谷ビル開催された。

今野支部長出席。

平成二十七年年度の事業報告、決算報告が承認され、二十八年度事業計画として、登山振興、山岳調査、山岳環境保全、会員向事業、法人管理等。それに伴う収支予算の説明があり、承認された。

第三号議案の定款・定款施行規則改正については、社会状況に適切に対応出来る柔軟な制度として、準会員制度が審議され、提案通りに承認された。

又、終身会員については、低金利が長期化している状況では運用が困難であることから当面の間受け入れを停止する等。

(会報「山」七月号参照)

### 会員数情報 平成二十七年年度末

◎会員数 五〇二〇名

名誉会員 十一名

永年会員 三六九名

終身会員 六四名

通常会員 四三〇二名

青年会員・他 二七四名

秋田支部会員数 五十九名

(平成二十七年四月一日現在)

### 余談

先の本会議で、社会状況に適切に対応出来るとして、準会員制度が可決された。

思い起こせば、秋田支部では昭和四十四年度の総会で、本会の入会金値上げに伴っての入会者減を考慮し、将来支部に在籍することを条件として、支部準会員制度が提案されたが、否決された経緯がある。(佐々木民秀支部顧問談)

(昭和四十四年度 秋田支部総会議案から)

### 東日本大震災の復興を願う烏海山登山に参加

五月十五日、烏海山七高山に、四年前に建立された東日本大震災の復旧を願う石柱を囲み、東日本大震災と熊本地震の被災者に、思いを寄せる登山が実施された。

支部からの参加者は次の通り。

今野昌雄 真坂洋一  
三浦俊雄 佐藤助雄



### 秋田支部自然保護委員

二十七年年度の活動

秋田支部の自然保護委員である

堀井副支部長の活動の一部を紹介

#### ◎「自然学習センターまんならめ」

(秋田市管理)

- ・六月十六日(火) 太平山前岳登山
- ・市立中通小学校五年生三十五名
- ・十月二十日(火) 太平山前岳登山
- ・秋田市岩見山内小学校一年生六名
- ・一月二十七日(水) 仁別植物園で、冬の観察会とスノーシュー体験
- ・秋田市下北出小学校五年生十八名
- ・二月三日(水) 妙見山でスノーシュー体験。
- ・秋田市河辺中学校一年生三十名

#### ◎秋田市仁別国民の森

(東北森林管理局管理)

仁別森林博物館案内人の一員として仁別の森来館者に館内案内、自然散策、育樹作業、クラフト製作等の指導。

#### ◎秋田市仁別植物園 (秋田市管理)

ボランティア活動

自然観察員として来園者に植物、樹木等の説明を行っている。

※支部会員で地域の自然観察会や地域の山行事に協力しておられる方は事務局までお知らせください。

支部の公益的事業として評価されま

# 会務報告

## ◎東北・北海道地区集会

担当者会議

○四月十八日(月) 午前九時から泉  
 コミセンで開催。  
 ・集会参加者への通知、会費納付書等  
 の送付について協議。  
 ・同封するパンフレットの手配等。

出席者 今野昌雄 鈴木裕子  
 三浦真六 佐々木長秀

○五月十九日(木) 午前九時から泉  
 コミセンで開催。  
 ・プログラムの検討。  
 ・班編成及びリーダーについて。  
 ・現地調査等について。

出席者 今野昌雄 鈴木裕子 三浦真六  
 佐々木長秀 堀井弘 鎌田倫夫  
 佐藤博 安藤金栄

○五月二十六日(木)  
 ・北秋田市阿仁・森吉両総合センター  
 訪問。集会の記念講演、民俗芸能の  
 依頼。パンフレット等恵送の依頼。  
 ・北秋田市長へ歓迎のあいさつを依頼。  
 ・森吉山荘との打ち合わせ。  
 集会場・宿泊・懇親会・横断幕・マ  
 イク等の依頼。

出席者 今野昌雄 三浦真六  
 佐々木長秀

○六月十七日(金) 泉コミセン  
 ・プログラム・宿泊・懇親会席順、タ  
 イムスケジュール等について協議。

出席者 今野昌雄 鈴木裕子  
 三浦真六 佐々木長秀

○六月二十日(月) 森吉山荘で打ち合  
 わせ。

・館内見学・懇親会場テーブル配置等。  
 出席者 鈴木裕子 石川祐子

○七月十六日(土) 交流山行Bコース・  
 桃洞沢を下見。  
 ・森吉山野生鳥獣センターから桃洞滝  
 までを往復。

・森吉山荘連絡事項確認  
 参加者 今野昌雄 三浦真六 柴田勸  
 鈴木裕子 佐藤博 石川祐子

○七月二十三日(土) 交流山行Bコー  
 ス・森吉山登山下見。  
 ・ゴンドラ乗車・ゴンドラ山頂駅から  
 山頂までを往復。

参加者 今野昌雄 堀井弘 鎌田倫夫  
 佐藤博 安藤金栄 佐々木長秀  
 藤田正義 鈴木裕子 石川祐子  
 柴田勸

## ◎第一回役員会

七月二日(土) 午前九時から泉コ  
 ミセンで開催。

・第三十二回東北・北海道地区集会に  
 ついて打ち合わせ。  
 ・役割分担、タイムスケジュール、懇  
 親山行の班編成・リーダー等の確認。  
 ・送迎及び配車の確認。  
 ・講演会及び民俗芸能の資料確認。  
 ・参加支部会員への連絡等。

出席者 今野昌雄 鈴木裕子 三浦真六  
 佐々木長秀 鎌田倫夫 佐藤博  
 安藤金栄 藤田正義 石川祐子  
 高橋忠雄 柴田勸

# 行事参加報告

## ◎秋田県山岳連盟総会

四月二十四日、午後一時三十分から  
 イヤタカで開催。

役員・代議員(八名) 出席。  
 ・二十七年事業報告決算承認、  
 二十八年事業計画予算案等の審  
 議承認。

・役員改正 支部関係者は次のとおり  
 顧問 高橋守 真坂洋一 今野昌雄  
 理事 小野信也 三浦俊雄 佐藤助雄  
 長岡幸則

監事 高橋洋二

支部関係出席者 今野昌雄 小野信也  
 三浦俊雄 高橋洋二

## ◎中央地区山岳協議会総会

六月三十日(木)、六時三十分から  
 赤沼・三吉神社で開催。九団体十三名  
 出席。二十七年事業・決算の報告、  
 二十八年の事業、予算等を審議・承認  
 役員改選 支部関係者は次の通り  
 会長 佐々木民秀

支部関係出席者 佐々木民秀 堀井弘

## ◎太平洋遭難救助協力を登録

中央地区山岳協議会の太平洋遭難救  
 助協力員(平成二十八・二十九年度)  
 として次の会員を登録。

秋田支部登録者  
 佐々木民秀 鎌田倫夫 安藤金栄  
 柴田勸 今野昌雄 三浦真六  
 堀井弘 鈴木裕子

他団体からの登録者

若月寿 打矢道夫 佐藤博 福田光子  
 長岡幸則 石川祐子 大橋忠雄  
 川口廣志

# 事務報告

◎二月一日、東北・北海道地区集会の  
 ご案内を三十二支部及び本会へ発送。  
 会報「山」への掲載原稿(実施要項)  
 を送信。

◎一月四日、本会からの補助金に関す  
 る二十八年事業計画を本会に提出。

◎二月十八日、本会からの補助金に関  
 する二十七年支部事業報告 並びに  
 支部決算報告を(領収書を添付) 本会  
 に提出。

◎三月二十五日、支部「山の日」事業  
 について本会に提出

◎四月十二日、本会に「日本山岳会支  
 部に関する規程第十二条」に基づく報  
 告を提出。(総会を開催したこと、を、  
 議案を添付して報告するもの)

◎四月二十五日 東北・北海道地区集  
 会参加者六十三名、秋田支部参加者  
 二十一名に、日程表、パンフレット、  
 会費納付書等郵送。

# 訂正

・会報九十七号  
 春の里山山行実施日  
 五月二十三日(土) を加える